令和４年度　第１期
論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

1　監督者の指示がある前に，この問題を開くことを禁止します。

2　試験開始の合図により，解答を始めてください。この試験では，六法を貸与し，その使用を許可します。

3　試験開始の合図の後，印刷不鮮明等に気付いた場合は，黙って手を挙げ，監督者に申し出てください。

4　解答は，答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また，鉛筆は不可です。

5　試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前５分間は，答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には，黙って手を挙げ，自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。

6　この問題は，試験終了後，持ち帰ることができます。

7　次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票，筆記具，時計（計算機能等のないものに限る。），眼鏡。
受験票は，氏名，受験番号が記載されている面を表にして，監督者が見やすい位置に置いてください。なお，上記以外のものについては，監督者の許可を得てください。

8　問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は，問題用紙に限り認めます。

9　携帯電話等は，必ず電源を切って鞄等にしまってください。

10　試験室内では，耳栓の使用はできません。

11　試験時間中の発病等やむを得ない場合には，黙って手を挙げ，監督者の指示に従ってください。

12　試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は，禁止します。

13　試験終了の合図とともに，直ちに筆記具を置き，監督者の指示を待ってください。

14　不正の手段によって試験を受け，又は受けようとした者に対しては，試験を停止し，合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑　　法〕

次の［事例］を読んで，後記［設問］に答えなさい。

［事例］

1　甲（40歳・男性）は，東京都内で飲食店を経営していたが，令和２年以降，コロナ禍による売上げの減少等から閉店に追い込まれ，莫大な借金のみが残った上，翌３年５月に，妻が二女を出産した際の大量出血により死亡したことから，令和３年７月１日頃，残された長女（当時６歳，身長120センチメートル，以下「Ｖ１」という。）及び前記二女（当時生後２か月，以下「Ｖ２」という。）と無理心中しようと考えた。

甲は，翌２日午後２時30分頃，千葉県いすみ市内の九十九里浜において，無理心中をするため，周囲の浜辺に人の姿がないことを確認した上で，まだ泳ぐことができないＶ１の手を引くとともに，Ｖ２を抱っこひもで抱いて，歩いて海に入水し，そのまま沖に向かった。そのまま，甲は，Ｖ１及びＶ２を連れて水深1.3メートルの地点まで進み，Ｖ１の足がつかないことを確認してから，Ｖ１の手を離すとともに，Ｖ２の全身が水中に沈んだことを認識しつつ，これを放置した。

2　その後，甲は，同地点で波に飲まれて転倒し，その際，Ｖ２を海中に投げ出してしまったことから，とっさに，Ｖ２の体を両手でつかみ，Ｖ２の全身が海面上に出るように抱え上げた。その際，甲は，Ｖ２が泣き声を上げたこと及びＶ１が「パパ」などと甲を呼ぶ声を聞いたことなどから，Ｖ１及びＶ２を死なせたくないという気持ちになり，同日午後２時35分頃，Ｖ１及びＶ２を連れて陸地まで引き返した。

3　甲は，Ｖ２が意識を失っていることに気付き，Ｖ２に海水を吐かせるため，Ｖ２をうつぶせの状態で腕に抱え，その背中を叩いたり，Ｖ２の鼻に，口をあてて海水を口で吸い上げるなどの救命措置を講じたが，うまくいかず，Ｖ２は意識を失ったままで，その呼吸も確認できなかった。甲は，前記２の転倒時に携帯電話機等の所持品を全て海中に落として紛失してしまっていたことから，防波堤付近ならば釣り人などがいて救急車を要請できるかもしれないと考え，同日午後２時37分頃，Ｖ１及びＶ２を連れて最寄りの防波堤に上がり，Ｖ１に大声で助けを呼ぶように指示するとともに，甲自身は前記救命措置を繰り返した。すると，同防波堤上で釣りをしていた救急救命士Ａ及びその同僚のＢがＶ１の声に気付いて，駆け付けた（なお，Ａ及びＢは，甲らが入水した浜辺に背を向けて釣りをしており，波の音のために，前記２のＶ２の泣き声及びＶ１の甲を呼ぶ声などに気付き得なかった）。甲は，Ａが救急救命士であるとは気付かなかったが，Ａがてきぱきと救命措置を執っていること，Ｂが救急車を呼ぶために電話をかけていたことから，以降，救命措置についてはＡらに任せ，同日午後２時47分頃に救急車が到着するまで，Ｖ２の横に付き添い，Ａからの質問に答えるなどしていた。

その後，救急搬送されたＶ２は，治療によって意識を回復し，Ｖ１及びＶ２の双方ともけがなどを負うことなく，後遺症もなかった。

［設問］

［事例］における甲の罪責について，具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く）。